

セキネシール工業株式会社 DX 戦略

(デジタル技術を活用した企業価値向上に向けた戦略)

2026 年 7 月 17 日 制定

セキネシール工業株式会社 代表取締役 関根 俊直

1. 経営環境の変化に対する認識（リスクと機会）

当社は 1962 年の設立以来、エンジン向けガスケット材料の製造・販売を通じて自動車産業を支えてきた。今日、データ活用やデジタル技術の進化は、社会と競争環境に大きな変化をもたらしている。当社はこの変化を次のとおり認識している。

- ・ リスク：自動車業界の電動化・構造転換によるエンジン関連部品市場の縮小、労働人口減少による人材確保難、取引先からの品質保証・トレーサビリティ・デジタル対応要請の高度化。従来の紙・属人的な業務のままでは、対応力・生産性の両面で競争力を失う。
- ・ 機会：デジタル技術とデータの活用により、少人数でも高い生産性・品質・提案力を実現できる。全社員への情報共有（情報の民主化）により、現場の知恵を経営に活かし、変化に迅速に対応できる組織へ変わることができる。

2. 経営ビジョンとビジネスモデルの方向性

2.1 経営ビジョン

「情報の民主化」を基盤に、全社員がデータとデジタル技術を活用して自律的に考え行動する会社となり、高品質なガスケット材料の安定供給と新たな価値創造を通じて、顧客と社会に貢献し続ける。

2.2 ビジネスモデル（データ・デジタル技術活用）の方向性

- ・ 製造現場のデータ（作業日報、設備・環境センサーデータ）と経営・営業情報を一元的に収集・共有・分析できる基盤を整備し、データに基づく工程改善・品質向上・迅速な経営判断を実現する。
- ・ 蓄積したデータを活用し、納期・品質・コストの競争力を高めるとともに、顧客への技術提案力を強化する。

3. DX 戦略（具体的な取組み）

上記ビジョンの実現に向け、2020 年からの取組み（クラウド全面移行、ワークフローシステムによるハンコレス化、Teams による全社情報共有、センサーと Teams を連携させた安全・稼働情報の見える化等）を土台として、以下を推進する。

- （1）現場の手書き作業日報のアプリ化：生産実績・作業データをデジタルで蓄積し、工程分析・改善、品質トレーサビリティ強化につなげる。
- （2）経営情報・営業情報のダッシュボード化：売上・受注・生産状況等のデータを見える化し、データに基づく迅速な意思決定と全社員との情報共有を行う。
- （3）センサーデータの活用拡大：WBGT（暑熱）アラートや作業開始時間の通知など、IoT センサーと Teams を連携させた安全・稼働データの収集・活用を拡大する。
- （4）生成 AI の業務活用：文書作成・情報検索・分析業務に生成 AI を活用し、業務効率と提案品質を高める。
- （5）全社員へのスマホ配布：全社員がいつでもどこでも情報にアクセスし、発信できる環境を実現する。

4. DX 戦略の推進体制と人材育成

4.1 体制・組織

- 代表取締役自らが実務執行総括責任者として DX 戦略の推進を統括し、経営会議において進捗を管理する。
- 各職場に代表アカウントを設け、班長へのスマホ支給・現場用 PC 設置により、現場を含めた全社推進体制を構築している。
- 外部との関係：公的支援機関・IT ベンダー等と連携し、最新技術の導入や知見の獲得を進める。

4.2 デジタル人材の育成・確保

- 全社員を対象とした IT ツール（Teams・SharePoint 等）の活用教育、生成 AI 活用の研修を実施する。
- 現場社員による日常的なデジタルツール活用（Teams 投稿・QR コード投票等）を通じて、実践的なデジタルスキルを底上げする。

5. IT システム環境の整備方針

- ・クラウド（Microsoft 365／SharePoint・Teams）を中核とした IT システム基盤を整備
・拡充し、社内データを一元管理する。
- ・紙・FAX・ハンコ等のレガシーな業務手段を廃止し、ワークフローシステム・電子データへの移行を徹底する。
- ・作業日報アプリ、ダッシュボード、IoT センサー等の新規システムは、既存クラウド基盤とデータ連携できる形で導入し、DX 投資を計画的に行う。

6. DX 戦略の達成状況を測る指標（KPI）

指標の種類	指標	目標
企業価値創造に係る指標	労働生産性（社員一人当たり売上高）	2029 年 7 月期までに 10%向上
DX 戦略の効果を評価する指標	手書き日報のデジタル化率	100%（2027 年 7 月期 末）
DX 戦略の効果を評価する指標	現場からの改善提案・Teams 投稿件数	年間 300 件以上
DX 戦略の効果を評価する指標	決裁（ワークフロー）リードタイム	平均 3 営業日以内
計画の進捗を評価する指標	経営・営業ダッシュボード導入	全部門（2027 年 7 月期 末）
計画の進捗を評価する指標	スマホ配布率（全社員）	100%（2027 年 7 月期 末）

7. 代表メッセージ

当社は 2020 年以来、「情報の民主化」を合言葉に、全社員への情報共有とデジタル技術の活用を進めてきました。テクノロジーは情報を「より安く・早く・楽に」全員へ届けることを可能にし、社員の自立性と会社の一体感を大きく高めてくれました。これからは、蓄積したデータと生成 AI をはじめとするデジタル技術を活かし、現場の知恵と経営の意思をつなぐ DX をさらに推進し、お客様と社会に選ばれ続ける会社を目指してまいります。

セキネシール工業株式会社 代表取締役 関根 俊直